

これに決まりだ!!

5月のレンジャー賞発表します!先月は34名の方にエントリーしていただきました、カメラで虫撮り。スタート早々から力作ぞろいでレンジャーたちも大いに悩みましたが、こどもの部・おとなの部それぞれ今月の受賞作品を選びました。

↓こちらの2作品です!!→

こどもの部 鯖江市の大西志果さんが撮ったベニシジミ。ハルジオンにとまったところをキャッチ!



おとなの部

タカさんが撮ったコイチャイ!コガネ。3段階ながわかい



受賞されたおふたりには、ささやかですが賞状と記念の品をお送りいたします。また、館内に受賞作品を大伸ばしして展示していますので、ぜひ見に来て下さいね!そして惜しくも今回受賞を逃してしまったみなさんも、これからご参加予定のみなさんも、8月いっぱいまで開催中なので、まだまだチャンスはありますよ!
エントリーお待ちしております!!

鴨池通信

かもいけつうしん No.262/2015.6

ひと雨ごとに緑になっていく鴨池で、いきものたちもすくすく成長しています。

6月号 CONTENTS

- ・これに決まりだ!
- ・田植えしました~!
- ・かもいけ歳時記 水無月
- ・鴨池のいきもの 6月
- ・TORI TOPICS May.
- ・イベントあるよ!

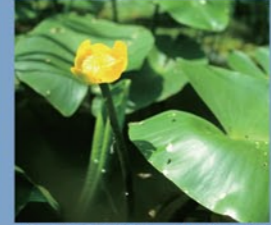


かもいけ歳時記 水無月

ひと雨ごとに山の緑が濃くなってゆきます。鴨池の水面も日に日に緑が濃くなっています。たんぼですくすく育つ稲はもちろん、マコモ、ヨシ、シヨウブ、ウキヤガラ、コウホネ、ハス、ヒシ:それぞれが初夏の陽射しと雨の恵みを葉いっぱいを受けて鴨池を覆いつくします。このころになると、ほたる道の先、ひとさわ濃い緑の葉の間にぼつりぼつりと黄色い小さな球のようなものが見えるようになります。コウホネの花です。冴えた黄色の花は、葉が受けた陽の光をぎゅっと集めたように輝いて見えます。そこから目を移していくと、池のすき間をうめつすように広がるヒシの葉の上にもごくごく小さな白い点が見えます。ヒシも開花し始めました。ハスのまるい葉の間からも、ほんのりと赤紫に色づいたつぼみが見え、空に向かって伸びてきています。初夏の鴨池、水草の花たちが水面に点描画を描きます。



↑ヒシの花。高さ1cmほどの小さな花は1日限りの命です。



↑コウホネの花。外側に5枚ついた花びらに見える部分は実は「がく」です。



→6月の始め頃の鴨池。水が見えるのは奥の暗く見えるところだけ。ほぼ全体が水草で覆われます。

田植えしました~!

今年は2回。まずは5月6日の鴨池たんぼクラブのイベント「田植えしよっさ」で、15名の参加者のみなさんと鴨池観察館友の会のメンバーが、観察館前の鴨池たんぼ2枚に苗を植えました。機械を使わずすべて手作業のたんぼ仕事です。



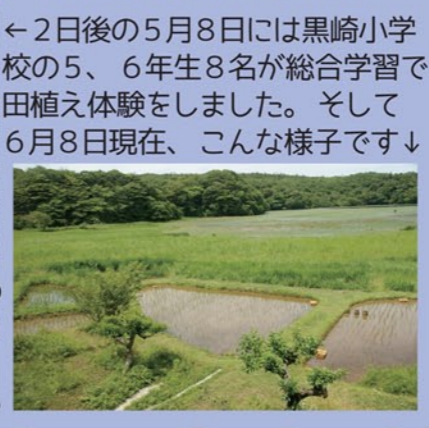
↑はじめに「わく」をまわしてたんぼに目印をつけます。



↑みんな並んで3~4列ずつ、手でひとつひとつ植えていきます。植え忘れはないかな?

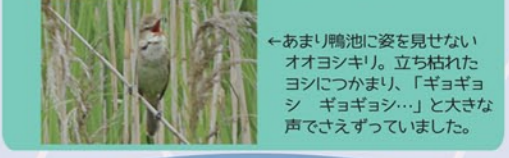


←2日後の5月8日には黒崎小学校の5、6年生8名が総合学習で田植え体験をしました。そして6月8日現在、こんな様子です↓



TORI TOPICS May.

- *5月の鴨池に来た鳥・いた鳥・事件などなどハイライトでご紹介します!
- ・カッコウ初認 (13日)
 - ・ホトギス初認 (16日)
 - ・サンコウチョウ初認! (21日)
 - ・ケリ4羽鴨池周回 (23日)
 - ・コチドリ鴨池滞在 (24日~)
 - ・オオヨシキリ初認 (28日)



←あまり鴨池に姿を見せないオオヨシキリ。立ち枯れたヨシにつかまり、「ギョギョシ ギョギョシ」と大きな声でさえずっていました。

イベントあるよ!

雨の日を楽しむ けしゴムはんこ

雨ふりの日が続いて外へ出られないこんな季節は、鴨池のいきものたちをモデルにしてけしゴムはんこを作っちゃおう!

6月21日(日) 9:30~11:30

持ち物: とくになし

※カッターなど刃物を使うので、小学校4年生以上の方を対象とします。定員は20名です。19日までにお申込みください。参加費は無料(別途入館券をお買い求めください 大人310円・75歳以上150円・高校生以下は無料です)。

今日はタニシくんスペシャルだよ!!

鳥じゃないです。貝です。鴨池たんぼに一年中います。ボクの居場所はたんぼです。鴨池たんぼをのぞいてみてください。黒っぽくて丸っこいかたまりがごろごろしています。これ石ころじゃないです。これがボクたち丸田螺なんです。螺は「つぶ」とか「にし」と読み、サザエのような巻貝のことだそうです。田にいるサザエみたいな巻貝といったところでしょうか。ほかに、田の主→タノヌシ→タニシとなったとか、田の中の石→タノイシ→タニシとなったという説もあるそうです。昔からずっとボクたちはたんぼにいたんですね。



石などについたコケを、口の中にある歯(しぜつ)で削り取って食べるのだ

冬もボクたちは鴨池たんぼにいますよ。殻の口をぴったり閉じて、泥の中でじっと水があたたくなる春を待っているんです。春になると、たんぼの泥の上を動きまわりながら

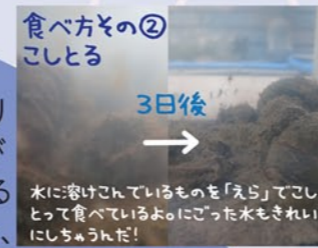
3通りの食べ方を使い分けて、その場所で食べられるものを食べています。だからボクたちは、周りの変化が激しいたんぼでも暮らしていけるんです。

鴨池たんぼの水はボクたちにとってのごちそうがいっぱい。もりもり食べてたら

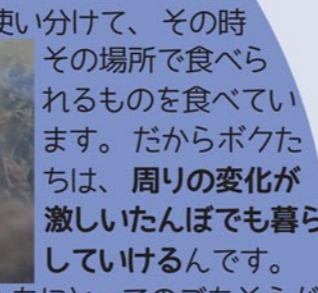
とっても大きくなっちゃいました!

ボクたちはここから出たことはないけれど、ほかのたんぼにいるなかまは元気かな...?暮らしやすいところが少なくなったらしいです。

数も減ってきているようで、ボクたち環境省レッドリストで絶滅危惧II類に指定されているとも聞きました。汚れた水の中でも生きてると言われたりしますが、やっぱり鴨池たんぼみたくに水がおいしいところがいっぱいある。



水の底に沈んでいる藻やいきもの死骸なども食べるよ



いつも鴨池たんぼにいるから会いに来てね!天気の良い日はよく動き回ってるよ!!



オスとメス、ここがちがうよ!

触角に注目だよ!右側が曲がっているのがオス。どちらもまっすぐなのがメスなんだ。

鴨池にはボクたちマルタニシのほかにもカワニナやモノアラガイ、サカマキガイなど巻貝のなかまがたくさん暮らしています。ボクたちは、ほかの巻貝とは違ってお母さんの殻の中で卵からかえって、小さなタニシになるまで育ってから水の中に出られます。こういう増え方を卵胎生というそうです。

鴨池観察館通信紙 No.262 鴨池通信2015年6月号

発行: 加賀市鴨池観察館

制作編集: 加賀市総合サービス株式会社 田米希久代 櫻井佳明 中野夕紀子

〒922-0564 石川県加賀市片野町子2-1

TEL: 0761-72-2200 FAX: 0761-72-2935

E-mail: kamoike@kagashi-ss.co.jp URL: www.kagashi-ss.co.jp/kamoike/

Twitter Facebookで最新ニュースお届け中! Facebookはアカウントなしでも見られます!!

指や針などで片方を隠すと読みとりやすい!